

寺泊地域における生活交通対策について

《分科会での討議内容》

1. 寺泊地域の高齢化率は、36%を超え、加えて一人暮らしの高齢者や高齢化のみの世帯が増加しています。

一方、バス・鉄道等の公共交通機関は、人口減や車社会の進展に伴い利用者は減少し、減便等により利便性が後退しつつあります。

このような状況の下、交通弱者の移動手段がなく、今後も高齢者が急激に増加することが見込まれ、生活交通の確保が緊急の課題となっています。

2. 地域の実態とニーズを把握するため、公共交通の運行されていない地域の65歳以上を対象にアンケート調査を実施しました。

その調査結果に基づいて、分析をするとともに、市交通政策課のアドバイスを受け、今後の方向として

○ 経済的で、利便性の高いデマンドタクシーの運行を中心に検討することとしました。

3. 次に、先行実施している小国地域生活交通（NPOで運行）についてその実態調査を行い、特に運営の勤務実態や利用状況の推移等に関心を持ちました。

その結果

○ 町内会中心の運営母体の可能性については、集落単位で結成されている町内会では、役員の任期もあり、要員面からも運営を担うのは無理との判断をしました。

○ NPOや町内会の他に運営母体として「コミュニティ推進協議会」等の団体も拡大していくか、もしくは、燕市のような市の責任で運行されるようであればベストとの要望意見がありました。

第二分科会として、地域の声を長岡市へ要望するため、「デマンドタクシー」を中心とする生活交通対策について、地域委員会に提言することとします。

《長岡市への要望書》

寺泊地域委員会では、これまで地域の身近な課題等について分科会で検討してきました。特に「少子高齢化に伴う課題について」複数年にわたり、時間をかけて討議・検討してまいりました。その中で、高齢者の地域生活交通の確保を重要課題として認識いたしました。

つきましては、寺泊地域の高齢者の生活交通について、以下のように要望いたしますので、その実現方よろしくお取り扱いをお願いいたします。

- ① 近隣の医療機関等の目的地まで運行する、デマンドタクシーの運行を要望します。
- ② そのための本格実施に向けた「実証実験」を早急に実施していただきたい。
- ③ 運営母体として、NPOや町内会の他に「コミュニティ協議会」等でも担えるよう、環境整備を検討いただきたい。
- ④ なお、デマンドタクシー以外で、要望の多い「スクールバスの余暇時間を活用」しての巡回バス等の運行について、今後の課題として検討いただきますよう要望いたします。